



Title	清掃の教え
Author(s)	和田, 良知
Citation	makoto. 1977, 20, p. 13b-13b
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86170
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

清掃の教え

財団法人 青少年の町

常務理事 和田良知

田良知

大阪防疫協会が戦時の混乱期に呱呱の声をあげられてから三十年、その間、めまぐるしく変化する社会環境の中であって、常に住民の快適な生活環境の維持のために、大きく貢献してこられたことに深く敬意を表するとともに、多大な成果をもって満三十周年を迎えられたことを、心からお慶び申し上げます。私どもが運営管理いたしております青少年の町（ヤングタウン）も、二千戸分の単身者住宅の清掃を貴協会にお願いしているのですが、居住者は、なにし

ろ、すべて独身の勤労青年のことゆえ、汚し方もひどく、また青少年全般に言えることですが、公共心に欠ける点が多分にあり、毎日の清掃に従事しておられる方々も、ご苦労の多いことだらうと思っております。私どもも経験のあることですが、学校時代には、何かの罰として掃除を科せられるということがよくありましたが、このようなかから清掃というものの意義を低く評価したり、あるいは誤解して成長した人も少なくありません。公共の場所の汚し

方のひどさ、清掃に当たってくださる方への社会的評価の低さなどが、それを如実に物語っているといえます。本来、清掃は美しい生活環境で住みたいという欲求から行われ、家庭では、しつけとして、また学校では、教育の一環として行われるべきものでしょうが、いつの頃からか、いやなものとしてうとんじられるようになってしまいました。だからといって、汚いのが好きな人はありません。よごしても誰かがするだろう、してくれるだろうという期待をもって横目でみていると

いうのが実体であらうと思います。ヤングタウンにおいて、貴協会が、その信条である「まこと」の精神をもって清掃に当り、常に美しく心がけていただいていることは、徐々にではありませんが、入居しております青年達に大きな教育的効果をあげてきております。と申しますのは、家庭で、学校で、自発的に清掃をするという経験の少ない青年達ですが、勤務を終えて清掃のゆきとどいた住居に帰ってくることの心地よさはよくわかります。また、徹底的に美化されたところほど、汚しにくい心理も働くのでしょうか。次第に以前ほど汚さなくなってきたことは事実です。しかし、まだまだ問題点は少なくはありません。早く掃宅した者が、ずばらして

自室のゴミを美しく清掃された廊下に掃出し、あとから掃宅した者は、清掃がされていらないと小言をいつてくる例などがあり、誤解からご迷惑をおかけしていることも多くあると思います。また、高層共同住宅での生活のなれから、清掃の障害になるようなことをしていることもありすが、ただ黙々と清掃に励んでおられますのには頭がさがる思いであります。

誰かが、いつか、どこかでしつけるべきことをしなかった。そのことをいま、貴協会が業務を通じて自然のうちに代わっていただいているといえましよう。私どもは、「まこと」の精神を根底とした貴協会の清掃業務がもたらす教育的効果について大いに期待し、注目しておるところであります。

公衆衛生等広範にわたっての業務を、すべてわれわれの生活環境の向上をめざして遂行しておられる貴協会のご努力に感謝申し上げますとともに、今後益々ご発展されますよう心からお祈り申し上げます。

